

名古屋市環境科学調査センター年報 投稿規定

1. 投稿者は、原則としてセンター職員に限る。ただし、共著者及び編集委員会が特に認めた者は、この限りではない。
2. 投稿論文は、執筆規定に定められた形式で記述する。また、年報には、投稿論文の他、学会誌等に掲載された論文の抄録及び学会発表等の講演要旨の抄録を掲載する。
 - ① 投稿論文とは、公害研究若しくは環境保全研究の基礎又は応用に関し、明らかとなった事実・結果を含むものをいう。
 - ② 他誌掲載論文、学会発表等の抄録は、以下の書式に従って、図表を含めて1ページで書く。体裁は、緒言、実験方法、結果、考察、結語、文献等の順序に従い、見出しを付けて書く。この際、必要となる著作権許諾については、執筆者自身で予め取得しておく。

者が発表し、センター職員が共著者又は連名者等とされている学会発表等については、題名、連名者一覧（所属を含む）、掲載誌名（学会名など）を編集委員会に報告する。

3. 論文を投稿する際には、編集委員会に提出する。
4. 編集委員会は、毎年、投稿論文受付の締切り日を設定し、投稿論文を集める。また、編集委員会は、投稿論文について、その論文に基づいた意見を述べ、字句その他の加除修正を行い、或いは著者にそれらの加除修正を要求することがある。
5. 編集委員会は、必要に応じて、本投稿規定を改正することができる。
6. この投稿規定は、**2013年10月1日**から適用する。

用紙	A4縦 横書き 50字45行 段組なし
余白	上下23mm, 左右20mm
文字サイズ	タイトル（英和、以下同じ。）－16pt 著者名（英和、以下同じ。）－12pt ※タイトル、著者名は、センタリング指定。 見出し大－13pt 見出し小－10.5pt 本文－9.5pt 図表タイトル－11pt
フォント	タイトル、著者名、本文 MS明朝（和文フォント） Times New Roman（欧文フォント） 見出し大、見出し小、図表タイトル MSゴシック（和文フォント） Arial（欧文フォント） ※数字は、半角（欧文フォント）にする。

- ③ 共同研究等で、他機関又はセンター職員以外の者が発表し、センター職員が共著者又は連名者等とされている論文については、題名、連名者一覧（所属を含む）、掲載誌名（学会名など）および要旨を編集委員会に報告する。掲載にあたっての許可については事前に確認し、了承が得られない場合の対応については編集委員会と協議する。
- ④ 共同研究等で、他機関又はセンター職員以外の

名古屋市環境科学調査センター年報 執筆規定

〔投稿論文の形式〕

- 1.投稿論文は、編集委員会が指定する以下の書式に従って日本語で書く。使用するソフトはWindows Word®若しくは当該ソフトと互換性のある文章作成ソフトを基本とする。

用紙	A4縦 横書き 24字45行 2段組
余白	上下23mm, 左右20mm
文字サイズ	タイトル(英和, 以下同じ.) - 16pt 著者名(英和, 以下同じ.) - 12pt 抄録-9.5pt (42字/行) ※タイトル, 著者名, 抄録は, センタリング指定. 見出し大-13pt 見出し小-10.5pt 本文-9.5pt 図表タイトル-11pt
フォント	タイトル, 著者名, 抄録, 本文 MS明朝 (和文フォント) Times New Roman (欧文フォント) 見出し大, 見出し小, 図表タイトル MSゴシック (和文フォント) Arial (欧文フォント) ※数字は, 半角 (欧文フォント) にする.
字間幅	著者名 100% 見出し大 50% 見出し小 10%
段落間幅	タイトル 段落下80% 著者名 段落下130% 見出し大 段落上40% 段落下80% 見出し小 段落上10%
段組設定	段間 10mm 24字/行

- 2.投稿論文は、①表題部、②要旨、③本文（表及び図を含む）からなる。
- 3.表題部には、表題及び著者名を1行あけて和文と英文で記す。共著者で当所に所属していない著者名の右肩に、*1、*2などの記号をつけて、それぞれの所属機関をそのページの最下段に記載する。
- 4.要旨は、400字以内の和文又は800字以内の英文で、論文の内容を的確に示す要約を書く。

〔原稿の提出方法〕

- 5.原稿は、A4用紙に印刷できるように完成したものを、電子ファイル形式で提出する。

〔原稿の書き方〕

- 6.本文は、緒言、実験方法、結果、考察、結語、文献等の順序に従い、大見出しを付けて書く。
その他は、下記の例示に従うものとするが、これらに限定されるものではない。
①大見出しの前後に、それぞれ1行空ける。
②句読点は「，」と「．」を用い、括弧は、「（」と「）」を用いることとし、それぞれ1字として数える。
③段落の頭は、1字空ける。
④専門用語は、学術用語集（文部省）又はJIS用語に従うこと。
⑤化合物名は、原則としてIUPAC命名法に従い、日本語で書く。但し、論文を簡潔にするために、元素記号或いは無機化合物の化学式を用いてもよい。
⑥外国の地名、人名などはローマ字つづりで書く。但し、慣用され、一般的になったものは片仮名で書く。（例：アラスカ、モール法）
⑦単位は、原則としてSI単位を用い、SI単位に属さない単位を用いる時には、あらかじめその定義を明確にしなければならない。但し、慣用的に用いられている単位（下記参照）に関してはその限りでない。また、数字は、アラビア数字を用いる。
長さ：Å
質量：g, kg, t
時間：min, h, d
平面角：° , ' , ''
体積：l (L) , ml, μl (μ：シンボルフォント)
圧力：atm, mmHg, Torr
エネルギー：eV, MeV

磁束密度：G

モル濃度：M, mM, μM (μ ：シンボルフォント)

⑧分率は，%，ppm, ppb, ppt等で記述してもよい。

⑨単位の積或いは商は，次のように記述する。

$\text{mol} \cdot \text{l}^{-1}$, $\text{mg} \cdot \text{l}^{-1}$, $\mu\text{g} \cdot \text{m}^{-1}$ (μ ：シンボルフォント),
 $\text{kg} \cdot \text{m}^{-3} \cdot \text{d}^{-1}$, mg/l , ml/min

⑩桁数の多い数字は，3桁毎に「，」で区切る．小数点は，「．」を用い，小数点の前に少なくとも1個の数字を置く．（例：「0.178」を「.178」としない）

⑪動物名，植物名及び微生物名は，イタリック体で記述する．

⑫図又は表を本文中に引用する場合には，「図1」又は「表1」等と記す．

⑬本文中の見出し，小見出しは，「1」，「2」，「3」，「1.1」，「1.2」，「1.1.1」，「1.1.2」等と記述する．

⑭本文中に引用する人名は，姓だけとする．著者が複数の時には，第一著者の姓だけを引用する．

⑮引用文献は，本文中，その項目の右肩に，「1,3)」，「5-15)」のように記す．

〔図と表〕

7.図と表の使用は，最小限にとどめる．同じ内容のものを図と表との両方で表現することは止める．

8.図や表の説明は，原則として日本語とする．

①表には，「表1」，「表2」などの番号を付け，番号と表題を表の上に記載する．表の注は，「*1」，「*2」などの記号を付けて，表の下に記載する．

②図には，「図1」，「図2」などの番号を付け，番号と表題を図の下に記載する．

〔文献の記載〕

9.文献名の略称は，邦文誌は「科学技術文献速報」などに従って，また，欧文誌は「Chemical Abstracts」などに従って記載する．

10.文献の記載方法は，以下の例に従うものとする．

①雑誌の場合

1) 三島聡子，大塚知泰，庄司成敬，坂本広美，安部明美：高架道路から水域への重金属の留出と由来，環境化学，**15**，335-343(2005)

2) Drapper D., Tomlinson R. and Williams P. : Pollutant concentrations in road runoff

:southeast Queensland case study., *J. Environ. Eng.*, **29**, 1179-1192(1984)

②単行本の場合

3) Bowen H.J.M. : *Environmental Chemistry of the Elements*, p.16-17, p.43, p.265, Academic Press (New York) (1979)

4) 日本薬学会編：衛生試験法・注解，p.54-57，金原出版（東京）(1980)

5) 松田好晴，小倉興太郎訳：溶液内イオン平衡，p.24-30，化学同人（東京）(1977)；Allen J.Bard : *Chemical Equilibrium*, Harper & Row Publishers (New York) (1966)

③インターネットの場合

6) http://www.env.go.jp/chemi/risk_assessment.html

〔その他〕

11.原稿提出後は，原則として著者校正を行わない．

12.例外として，投稿論文を英文で書く場合は，和文の論文形式に準ずる．